

図書館NEWS 2013 11月号

発行:天城中・高図書委員(2年R組 亀井 里見)

11/12月カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	29	30
×	◎	○	◎	○	◎	×
1	2	3	4	5	6	7
×	◎	○	◎	○	◎	×
8	9	10	11	12	13	14
×	◎	○	○	△	◎	×
15	16	17	18	19	20	21
×	◎	○	◎	○	◎	×
22	23	24	25	26	27	28
×	×	○	×	×	×	×

どうも！図書委員で一す！！

気づけばもう12月間近。急に寒くなったので体調などを崩された方もいるのではないのでしょうか？（-~-:）

2013年も、あと少しで終わってしまいます。みなさん、年納めのついでに読み納めなど、いかがでしょうか？図書館で1年の締めくくりにふさわしい本を見つけてください。

△…昼と放課後のみ

◎…延長開館日(17:45まで)

○…開館日

×…閉館日



図書館にクリスマスツリー出現!?

今年も図書館にクリスマスツリーを飾ります！

綺麗なクリスマスツリーは
クリスマスの代名詞ですよね

しかし！

そのままのツリーは飾り付けされていないから
あんまり可愛くないのです
ということで皆でツリーを飾っちゃいましょう
ちっこいサンタや輝くベル
靴下があなたを待っています！



やなせ たかし 特集

やなせ たかし 1919年2月6日生まれ アンパンマンの産みの親。
過去には、デザイナー、編集者、舞台美術家などの多分野で活躍した経歴の持ち主。
10月13日に惜しまれつつこの世を去ったやなせさんの作品を今回は特集

オイドル絵っせい ～人生、90歳からおもしろい！～

著作権保護のためweb上では本の画像を削除しています。

老人のアイドル「オイドル」を名乗る筆者。
日々おそいかかる死神と闘いながらも現役を貫き、縦横無尽に人生を謳歌する。
やなせ たかしがユーモラスに綴る、創作への情熱、そして、生きる喜び。

足みじかおじさん

著作権保護のためweb上では本の画像を削除しています。

足みじかおじさんは無名である。カッコよくない。だけど、心に元気をくれる人。
悩む時、悲嘆にくれる時、ひそかに手を差し伸べる。
やなせ たかしが長年のライフワークとして書き続けてきた、少し、大人向けのショートメルヘン。

痛快、第二の青春 ～アンパンマンとぼく～

著作権保護のためweb上では本の画像を削除しています。

『分身』アンパンマンが60歳でヒット、70歳でアニメ化して大ヒット。
当時84歳のやなせ たかしが第二の人生を謳歌する、痛快自伝。

おじいさんがメインキャラクター!?

おじいさんがメインキャラクターを務める小説と聞いてあなたはどんなものを思い浮かべますか？

筆者やタイトル、ジャンルだけではなくキャラクターの年齢から小説を探していくのも一興ですよ。今回はいろいろなタイプのおじいさんが主人公の小説を集めて紹介します。

著作権保護のため web 上では本の画像を削除しています。

『The Wish List』 Eoin Colfer

この本に出てくるおじいさんは一人暮らしの老人、ラウリー。彼の家に忍び込んだ時に死んでしまった主人公メグは生前の善行と悪行のポイントが釣り合い天国と地獄どっちつかずの状態。メグは天国に行くため彼の“ウィッシュリスト”を叶えることに。ユーモアいっぱいでおススメです！

著作権保護のため web 上では本の画像を削除しています。

『わたしのグランパ』 筒井 康隆

こちらのおじいさんは俠気を持ったグランパ、五代謙三。いじめられている珠子は彼に同級生にからかわれているのを目撃されます。謙三は不良や暴力団に立ち向かい問題を解決していきますが…。筒井康隆としては珍しく毒のない作品。ストレートでわかりやすい小説です。

著作権保護のため web 上では本の画像を削除しています。

『クリスマス・キャロル』 ディケンズ

最後のおじいさんは初老のエゴイスト。彼はイヴの夜に知人の亡霊、3人の精霊に出会い人間性を回復していきます。名前だけ聞いたことがあるという人も、もう読んだという人も来たるクリスマスの先がけとしてどうぞ。

天城中学校図書委員会より

図書委員 2B 橋本英里香・三上留奈

今月の、本の紹介のテーマは「音楽」です。

『吹奏楽あるある』（吹奏楽部あるある研究会 代表オザワ部長）

皆さんは、この本を読んだことがありますか？この本は、私のお気に入りの本の中の一冊でもあります。この本は、吹奏楽でよくあることがギュッとつまっています。吹奏楽部の皆さんは「分かるー！」「あるある！」など、共感できる内容です。違う部の人には、「そんなことあるんだ！」と、吹奏楽部の意外な一面を知ることができます。思わず吹き出してしまうかもしれません！この本のオススメの読み方は、一人で読むのもよいのですが、二、三人で一緒に読むとおもしろさが倍に増します！と・に・か・く！図書室へ足を運んでこの本を見つけ、手にとって読んでみてください。

著作権保護のため web 上では本の画像を削除しています。

『天井の音楽』

（メディアワークス文庫 木崎咲季）

高校二年の僕、秋月上総は毎日悩んでいた。離婚した母が亡くなったため、十三年間離れていた、父と姉と暮らすことになったからだ。姉の天音は才能あるピアニストの卵で、父は有名なピアノの指導者である。天音は毎日のように僕に、「あなたのこと弟なんて思ってない」と言うけれど、僕だって同じだ。だけどもある日、箱入りお嬢様の天音を学校から送って帰った僕は、彼女もコンビニに行くし、甘い物が好きな“普通の女の子”なのだを知る。父と姉と亡き母を繋ぐ音楽。その素養のない僕は、本当の家族になれるのだろうか――。

著作権保護のため web 上では本の画像を削除しています。